

# 令和3年度未就業看護職員実態調査

## I 調査概要

### 1. 調査目的

- 1) 未就業看護職の現状と復帰する上での阻害要因を把握し、効果的な就業支援のための基礎資料とする
- 2) 看護職の地域偏在の実態を知る
- 3) ナースセンター利用者の利便性向上と利用しやすい体制構築のための基礎資料とする

### 2. 調査期間

令和3年10月8日（金）～令和3年10月30日（土）

### 3. 調査対象

令和2年度にe-ナースセンターに新規求職登録した看護職のうち、令和3年7月末時点で「就業活動中」の登録者289人

### 4. 調査方法

郵送による自記式調査票の配布、Webまたは郵送による回収

### 5. 回答状況

	全体	20代	30代	40代	50代	60代以上
調査対象数	289	41	72	73	59	44
回答数	106	8	23	23	25	27
回収率	36.7%	19.5%	31.9%	31.5%	42.4%	61.4%

※上記回答者のうち、すでに就職している登録者からの回答もあった。

【内訳】未就業者 49人／就業者 57人

## II 調査結果

### 1. 未就業者（49人）の属性

#### 1) 資格・居住地域

未就業者49人のうち、資格別では看護師が72%、准看護師9%、助産師6%、保健師4%であった。（図1）

居住地域（医療圏域別）では、新潟地域が最も多く57%、次いで中越地域23%、上越地域14%であった。魚沼地域、佐渡地域からの回答は無かった。（図2）

図1 資格別

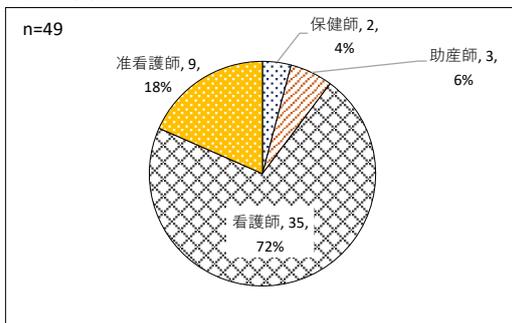
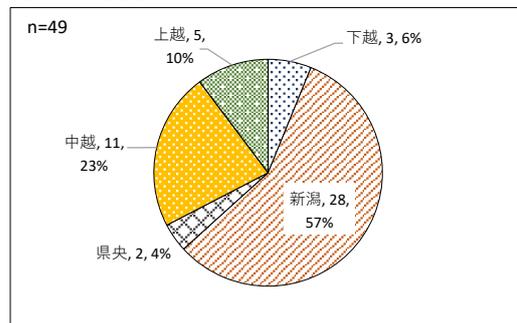


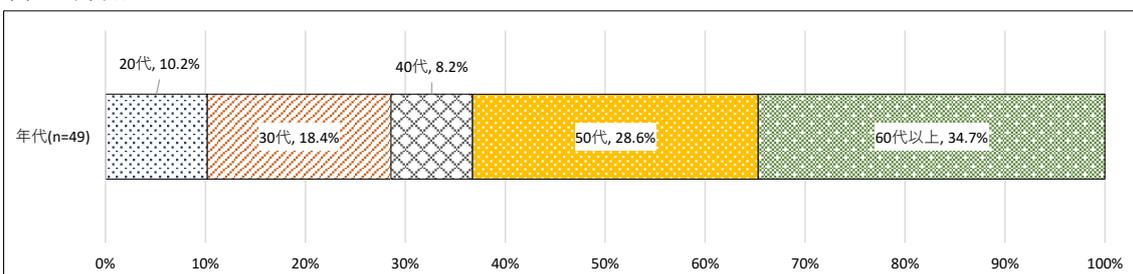
図2 医療圏域別



#### 2) 年代

年代別では60代以上が最も多く34.7%、次いで50代が28.6%、30代が18.4%であった。（図3）

図3 年代別



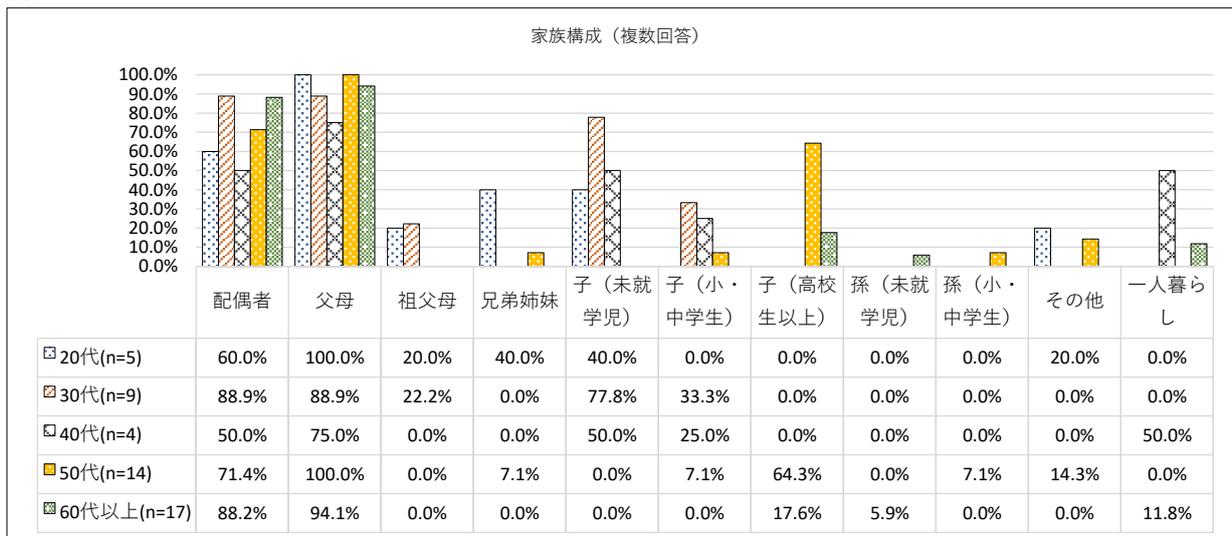
### 3) 家族構成 (複数回答)

同居家族について聞いたところ、「父母」が最も多く93.9%と全体の9割以上が父母と同居していると回答した。次いで「配偶者」77.6%、「子(高校生以上)」24.5%、「子(未就学児)」22.4%の順であった。「父母」との同居は、どの年代でも高く、「子(未就学児)」との同居では30代の回答が多くなっている。(表1、図4)

表1 家族構成 (複数回答)

	配偶者	父母	祖父母	兄弟姉妹	子(未就学児)	子(小・中学生)	子(高校生以上)	孫(未就学児)	孫(小・中学生)	その他	一人暮らし
20代(n=5)	3	5	1	2	2	0	0	0	0	1	0
30代(n=9)	8	8	2	0	7	3	0	0	0	0	0
40代(n=4)	2	3	0	0	2	1	0	0	0	0	2
50代(n=14)	10	14	0	1	0	1	9	0	1	2	0
60代以上(n=17)	15	16	0	0	0	0	3	1	0	0	2
計	38	46	3	3	11	5	12	1	1	3	4
割合(%)	77.6	93.9	6.1	6.1	22.4	10.2	24.5	2.0	2.0	6.1	8.2

図4

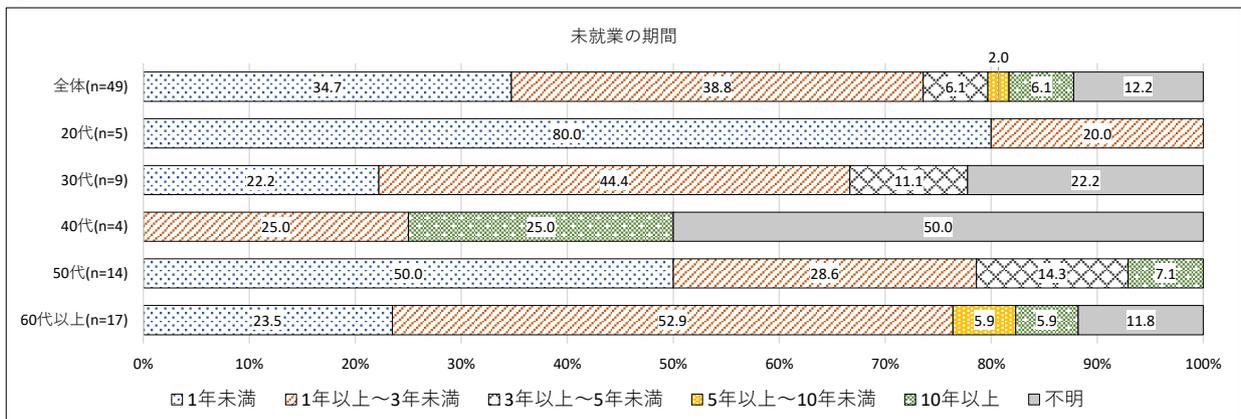


## 2. 未就業者(49人)の状況

### 1) 未就業の期間

未就業の期間では、「1年以上～3年未満」が最も多く38.8%、次いで「1年未満」34.7%であり、回答者の7割以上が離職から3年未満であった。(図5)

図5



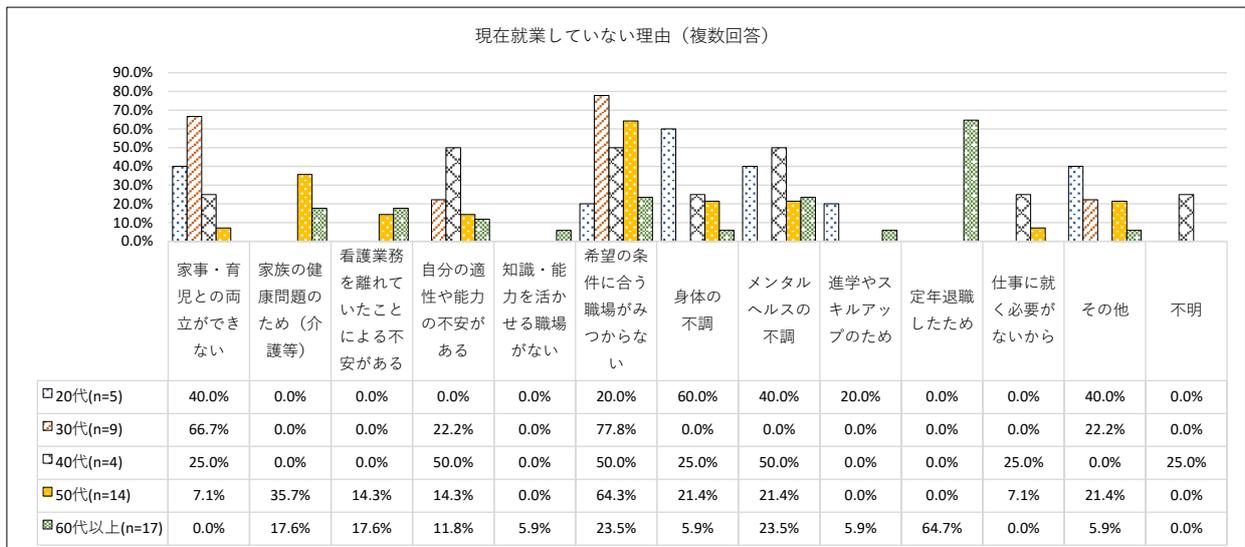
2) 現在就業していない理由（複数回答）

現在、就業していない理由では、「希望の条件に合う職場が見つからない」46.9%が最も多く、次いで「定年退職したから」22.4%、「家事・育児との両立ができない」20.4%であった。（表3、図6）

表3 現在就業していない理由（複数回答）

	家事・育児との両立ができない	家族の健康問題のため（介護等）	看護業務を離れていたことによる不安がある	自分の適性や能力の不安がある	知識・能力を活かせる職場がない	希望の条件に合う職場が見つからない	身体の不調	メンタルヘルスの不調	進学やスキルアップのため	定年退職したため	仕事に就く必要がないから	その他	不明
20代(n=5)	2	0	0	1	0	1	3	2	1	0	0	2	0
30代(n=9)	6	0	2	0	0	7	0	0	0	0	0	2	0
40代(n=4)	1	0	2	1	0	2	1	2	0	0	1	0	1
50代(n=14)	1	5	2	2	0	9	3	3	0	0	1	3	0
60代以上(n=17)	0	3	2	1	1	4	1	0	1	11	0	1	0
計	10	8	8	5	1	23	8	7	2	11	2	8	1
割合(%)	20.4	16.3	16.3	10.2	4.1	46.9	16.3	14.3	4.1	22.4	4.1	16.3	2.0

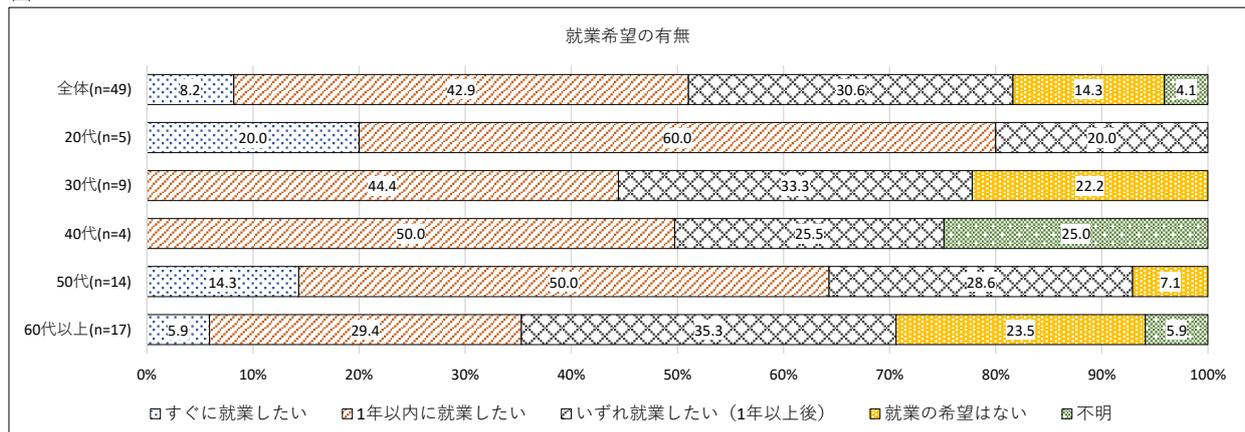
図6



3) 就業希望の有無

就業希望の有無について、「すぐに就業したい」が8.2%、「1年以内に就業したい」が42.9%、「いずれ就業したい（1年以上後）」が30.6%で、全体の8割以上が「就業したい」と回答した。「就業の希望はない」が14.3%で、回答した7人の「現在就業していない理由」をみると、「身体の不調」、「家事・育児との両立ができない」、「希望の条件に合う職場が見つからない」、「定年退職したため」等の理由となっている。（図7）

図7

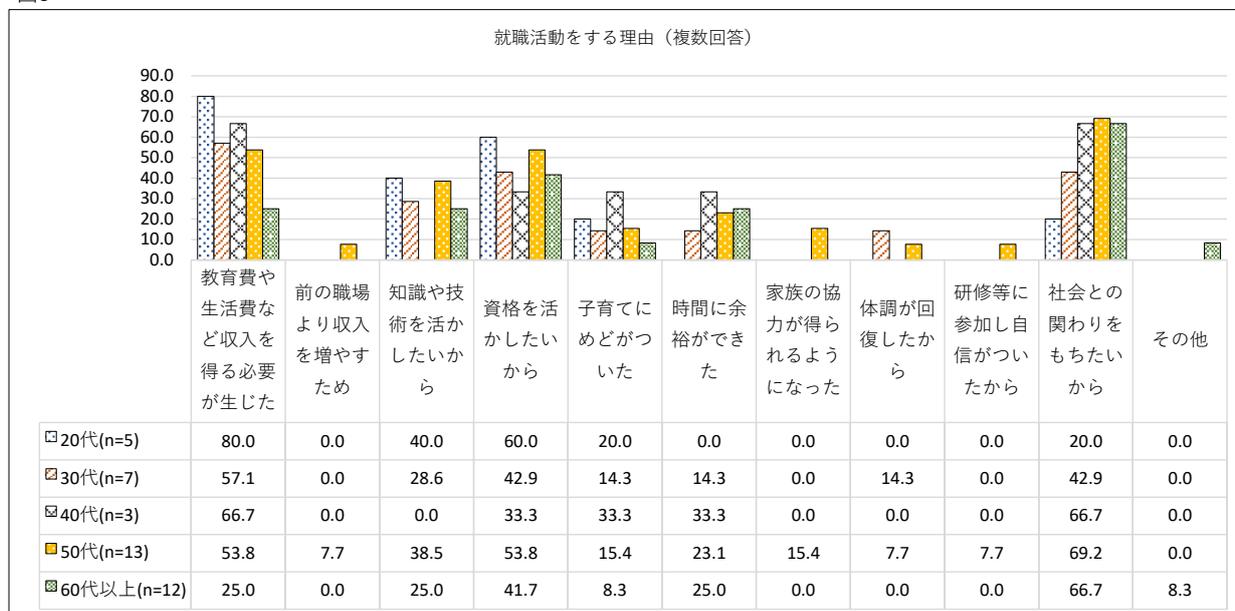


4) 「就業したい」と回答した40人の就業活動をする理由（複数回答）

就業したいと回答した40人に就業活動をする理由を聞いたところ、「社会との関りをもちたいから」が57.5%、「教育費や生活費など収入を得る必要が生じた」が50.0%、「資格を活かしたいから」47.5%、「知識や技術を活かしたいから」30.0%であった。

年代別でも大きな差はみられないが、「社会との関りをもちたいから」では40代以上からの回答が多く、「教育費や生活費など収入を得る必要が生じた」では、20代、30代からの回答が多かった。（図8）

図8

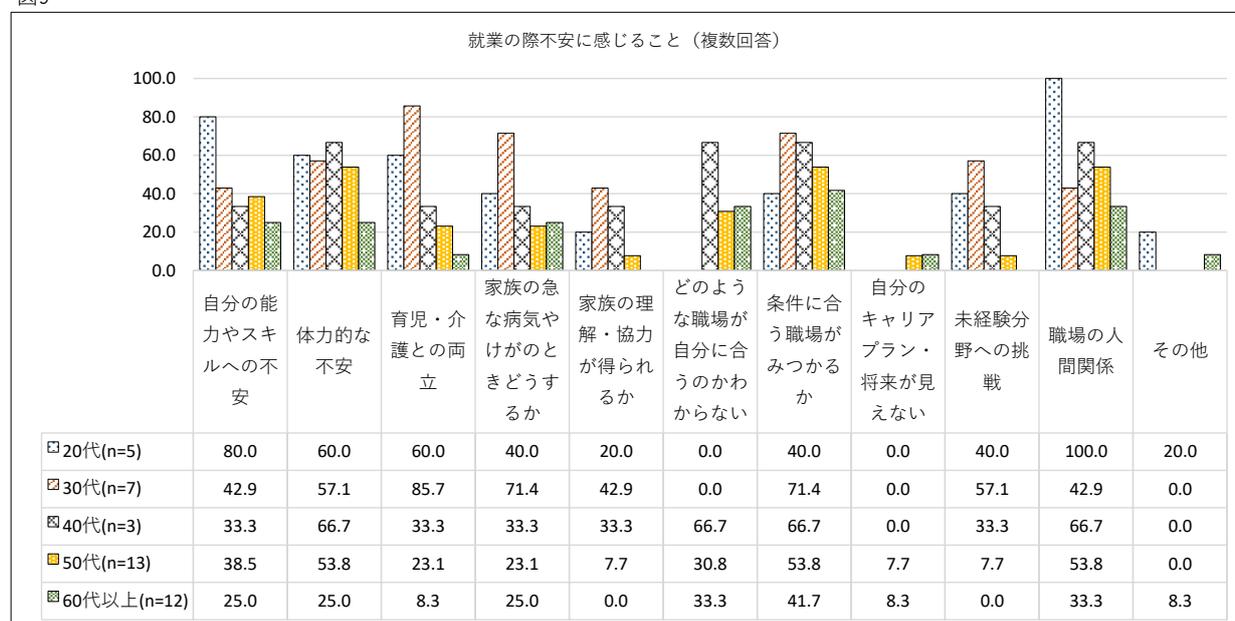


5) 就業の際に不安に感じること（複数回答）

就業の際に不安に感じることについて、「条件に合う職場が見つかるか」52.5%、「職場の人間関係」52.5%が最も多く、次いで「体力的な不安」47.5%、「自分の能力やスキルへの不安」40.0%であった。

年代別でみると、20代では「職場の人間関係」、「自分の能力やスキルへの不安」が多く、30代では「育児・介護との両立」、「家族の急な病気やけがのときどうするか」が多かった。40代、50代では「体力的な不安」や「条件に合う職場が見つかるか」が上位であった。（図9）

図9



6) 就業を希望する施設（複数回答）

就業を希望する施設では、「一般診療所」が40.0%と最も多く、次いで「健診センター」が32.5%、「通所介護（デイサービス等）」が25.0%であった。病院では、「慢性期病院」の希望が多かった。（表4）

表4 就業を希望する施設（複数回答）

	急性期 病院	慢性期 病院	療養型 病院	精神科 病院	一般 診療所	産科 診療所	透析 診療所	介護老人 保健施設	介護老人 福祉施設 (特養)	通所介護 (デイ サービス 等)	その他介 護施設
20代(n=5)	1	2	0	0	3	1	0	1	1	1	1
30代(n=7)	1	2	0	0	2	2	2	0	0	1	0
40代(n=3)	0	0	0	0	1	0	0	1	2	1	1
50代(n=13)	0	2	1	0	8	0	1	1	2	4	2
60代以上(n=12)	1	0	0	0	2	1	0	1	3	3	0
計	3	6	1	0	16	4	3	4	8	10	4
割合(%)	7.5	15.0	2.5	0.0	40.0	10.0	7.5	10.0	20.0	25.0	10.0

	訪問看護 ステー ション	行政（省 庁、都道 府県本 庁・保健 所、市区 町村等）	健診セン ター	企業・事 業所（産 業保健 等）	看護系教 育機関	保育施設	学校看護 師	その他
20代(n=5)	2	1	0	1	0	1	2	1
30代(n=7)	0	2	3	2	3	2	1	1
40代(n=3)	1	1	1	1	0	0	0	0
50代(n=13)	1	2	4	2	0	0	0	0
60代以上(n=12)	0	2	5	1	2	0	0	2
計	4	8	13	7	5	3	3	4
割合(%)	10.0	20.0	32.5	17.5	12.5	7.5	7.5	8.0

7) 就業を希望する職種

就業を希望する職種では、看護師の希望が最も多く75.0%、准看護師12.5%、保健師5.0%、助産師5.0%であった。（表5）

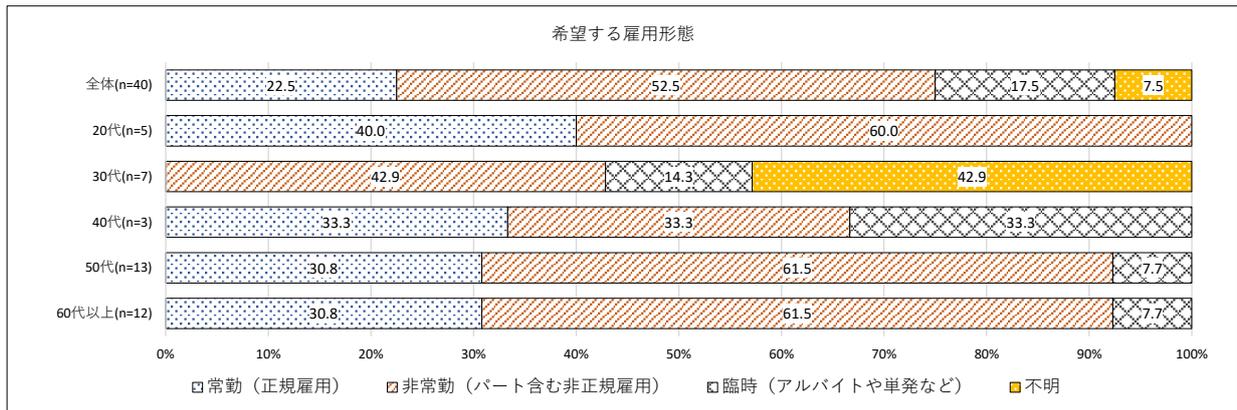
表5 就業を希望する職種

	保健師	助産師	看護師	准看護師	不明
20代(n=5)	0	0	4	0	1
30代(n=7)	0	1	6	0	0
40代(n=3)	0	0	3	0	0
50代(n=13)	1	0	9	3	0
60代以上(n=12)	1	1	8	2	0
計	2	2	30	5	1
割合(%)	5.0	5.0	75.0	12.5	2.5

8) 希望する雇用形態

就業を希望する雇用形態を聞いたところ、「非常勤（パート含む非正規雇用）」が52.5%と最も多く、どの年代でも正規雇用より非正規雇用を希望する割合が多かった。「常勤（正規雇用）」の希望は22.5%で、年代別では20代が最も多かった。（図10）

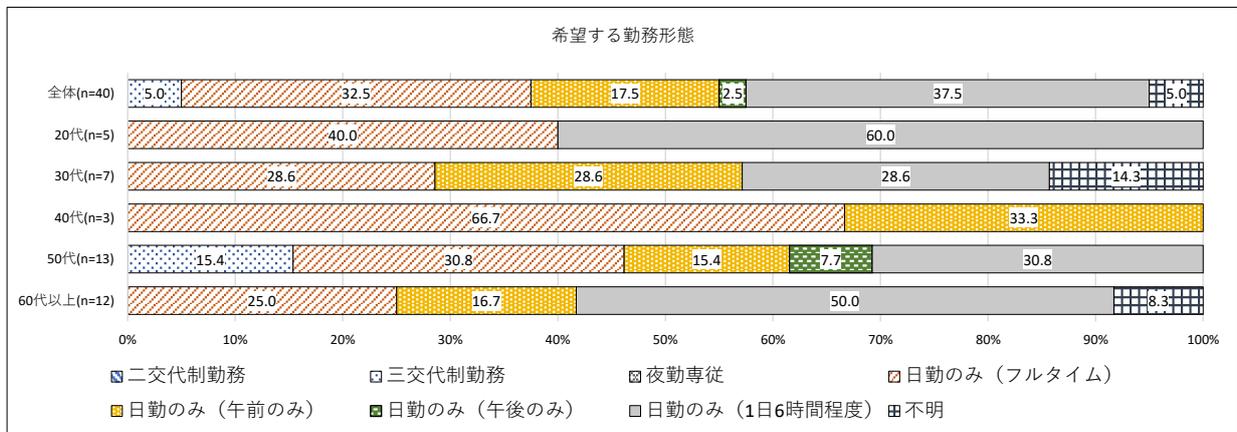
図10



9) 希望する勤務形態

希望する勤務形態について、最も多かったのは「日勤のみ（1日6時間程度）」37.5%であった。次いで、「日勤のみ（フルタイム）」32.5%、「日勤のみ（午前のみ）」17.5%の順であり、日勤帯での勤務の希望が合わせて9割を超えていた。夜勤可能者の回答では、「三交代制勤務」5.0%であった。（図11）

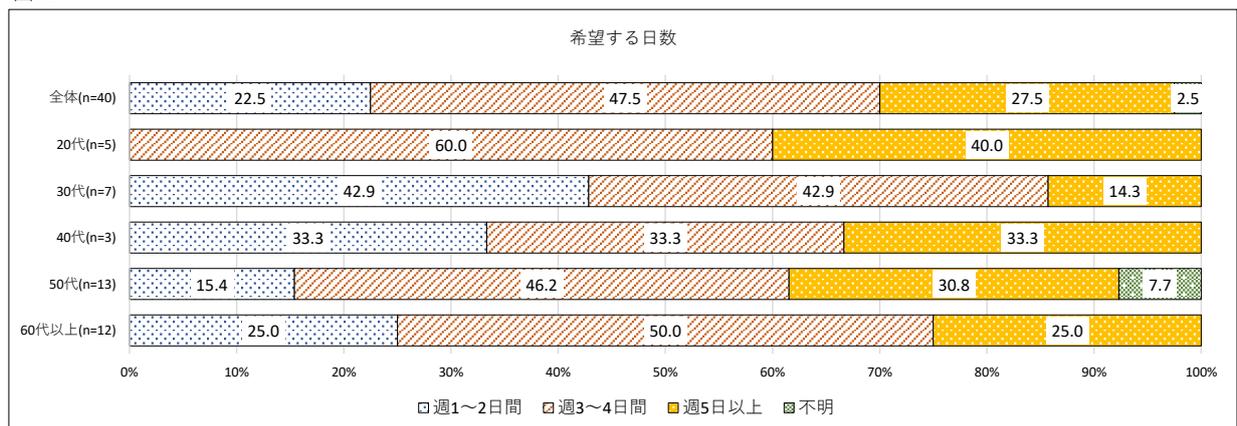
図11



10) 希望する勤務日数（週日数）

希望する勤務日数について、「週3～4日」が47.5%で、どの年代でも多くなっている。次いで「週5日以上」が27.5%、「週1～2日」は22.5%であった。（図12）

図12



1 1) 希望する給与額

希望する給与額では、「10万円以下」の希望が最も多く、27.5%であった。次いで「11～15万円」が25.0%であった。(表6)

表6 希望する給与額

	10万円以下	11～15万円	16～20万円	21～25万円	26～30万円	31～35万円	36万円以上	不明
20代(n=5)	0	0	2	1	1	0	0	1
30代(n=7)	4	1	1	1	0	0	0	0
40代(n=3)	1	0	0	1	1	0	0	0
50代(n=13)	3	3	2	2	3	0	0	0
60代以上(n=12)	3	6	0	1	0	0	1	1
計	11	10	5	6	5	0	1	2
割合(%)	27.5	25.0	12.5	15.0	12.5	0.0	2.5	5.0

1 2) 希望する週休

希望する週休は、「その他「臨時などで就業日が少ない等）」が42.5%で最も多かった。(表7)

表7 希望する週休

	4週6休（隔週週休2日制）	4週8休（完全週休2日制）	こだわらない	その他（臨時などで就業日が少ない）
計	1	14	8	17
割合(%)	2.5	35.0	20.0	42.5

1 3) 希望する福利厚生（複数回答）

希望する福利厚生では、7割の方が「通勤手当」を希望をし、次いで「医療費や健診等の補助」42.5%、「賞与」42.5%、「休暇制度の充実」37.5%の順であった。(表8)

表8 希望する福利厚生（複数回答）

	住宅手当	社宅・独自身寮がある	通勤手当	食事補助（社食割引など）	医療費や健診等の補助	休暇制度の充実	キャリアアップ支援	育児休業	保育施設	病児保育	ベビーシッター費用補助
20代(n=5)	2	0	3	1	1	3	1	1	1	0	0
30代(n=7)	1	0	5	1	2	5	0	3	2	4	1
40代(n=3)	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0
50代(n=13)	0	1	8	1	6	4	0	0	0	0	0
60代以上(n=12)	2	1	9	0	7	3	1	0	0	0	0
計	5	2	28	3	17	15	2	4	3	4	1
割合(%)	12.5	5.0	70.0	7.5	42.5	37.5	5.0	10.0	7.5	10.0	2.5

	介護休業	短時間勤務制度	昇給	賞与	退職金	就職支度金	その他
20代(n=5)	1	3	3	3	1	1	0
30代(n=7)	1	1	2	3	2	2	0
40代(n=3)	0	1	1	1	1	0	0
50代(n=13)	4	0	6	7	5	1	1
60代以上(n=12)	2	2	2	3	2	0	0
計	8	7	14	17	11	4	1
割合(%)	20.0	17.5	3.5	42.5	27.5	10.0	2.5

14) 就業後、希望する指導期間

就業後希望する指導期間は、「2週間～1ヶ月」が45.0%、次いで「1～3ヶ月」30.0%であった。(表9)

表9 就業後、希望する指導期間

	2週間以内	2週間～1ヶ月	1～3ヶ月	3ヶ月～6ヶ月	6ヶ月～1年
20代(n=5)	0	0	4	0	1
30代(n=7)	1	3	3	0	0
40代(n=3)	0	3	0	0	0
50代(n=13)	1	7	4	1	0
60代以上(n=12)	6	5	1	0	0
計	8	18	12	1	1
割合(%)	20.0	45.0	30.0	2.5	2.5

15) 最も重視する希望条件

最も重視する希望条件については、「希望する勤務時間や日数で働ける」が35.0%と最も多く、年代別でもどの年代でも多くなっている。次いで「仕事の内容が希望に合っている」15.0%であった。(表10)

表10 最も重視する希望条件

	希望する給与水準である	希望する勤務時間や日数で働ける	残業がない・もしくは少ない	自宅から職場が近い	福利厚生が充実している	教育・研修体制の充実(キャリアアップ支援等)	仕事のランクに対する研修等の支援がある	仕事の内容が希望に合っている	休暇制度の充実・有給取得率が高い	職場の雰囲気や人間関係	不明
20代(n=5)	0	2	1	0	0	0	0	1	1	0	0
30代(n=7)	1	4	0	0	0	0	0	0	1	0	1
40代(n=3)	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0
50代(n=13)	1	4	0	1	0	0	1	2	1	2	1
60代以上(n=12)	0	3	0	1	0	0	0	3	0	1	4
計	2	14	2	2	0	0	1	6	3	4	6
割合(%)	5.0	35.0	5.0	5.0	0.0	0.0	2.5	15.0	7.5	10.0	15.0

3. 看護職の地域偏在について

1) 就業を希望する地域(複数回答)

就業を希望する地域では、居住地または隣接する市町村での就業希望が多かった。(表11)

表11 就業を希望する地域(医療圏域別)

居住地域	新発田市	聖籠町	新潟市	阿賀野市	五泉市	三条市	加茂市	田上町	長岡市	上越市	不明
下越(n=3)	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1
新潟(n=23)	2	0	22	4	4	1	1	1	0	0	2
県央(n=1)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
中越(n=8)	0	1	1	0	0	0	0	0	6	0	1
魚沼(n=0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上越(n=5)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
佐渡(n=0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2) どのような条件があれば希望以外の地域で就業を検討できるか (複数回答)

希望以外の地域での就業について聞いたところ、「どのような条件でも難しい」が57.5%と最も多かったが、条件付きで希望地域以外も就業可能と回答した中では、「遠方からでも交通費の支給がある」が20.0%、「短期間なら可能(数ヶ月～1年以内)」が17.5%、「就業先の賃金が高い」17.5%などが多かった。(表12)

表12 どのような条件があれば希望以外の地域で就業を検討できるか (複数回答)

	短期間なら可能(数ヶ月～1年以内)	就業先の賃金が高い	遠方からでも交通費の支給がある	移住支援金がある	生活面での支援制度がある(住居補助、養育費補助、医療費補助等)	その土地に魅力を感じる(趣味やレジャーを充実したい等)	その他	どのような条件でも難しい
20代(n=5)	0	0	0	0	0	0	1	4
30代(n=9)	2	2	2	1	1	0	0	5
40代(n=4)	1	1	0	0	0	0	0	1
50代(n=14)	2	3	4	0	2	0	1	7
60代以上(n=17)	2	1	2	1	2	0	2	6
計	7	7	8	2	5	0	4	23
割合(%)	17.5	17.5	20.0	5.0	12.5	0.0	10.0	57.5

3) 条件付きであれば就業可能な地域 (複数回答)

2) で条件付きで希望以外の地域でも就業可能と回答した17人の就業可能な市町村を医療圏域別でみると、概ね居住地と隣接する市町村での就業の希望が多く、転居が必要な地域への就業希望は少なかった。(表13)

表13 条件付きであれば就業可能な地域 (医療圏域別)

	村上市	関川村	粟島浦村	胎内市	新発田市	聖籠町	新潟市	阿賀野市	阿賀町	五泉市	弥彦村
下越 (n=2)	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0
新潟 (n=8)	0	0	0	0	1	1	7	1	1	3	1
県央 (n=1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中越 (n=4)	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	1
上越 (n=2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	燕市	三条市	加茂市	田上町	見附市	長岡市	出雲崎町	小千谷市	魚沼市	南魚沼市	湯沢町
下越 (n=2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新潟 (n=8)	2	2	1	1	0	2	0	0	0	0	0
県央 (n=1)	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
中越 (n=4)	1	1	1	1	2	2	0	2	0	0	0
上越 (n=2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

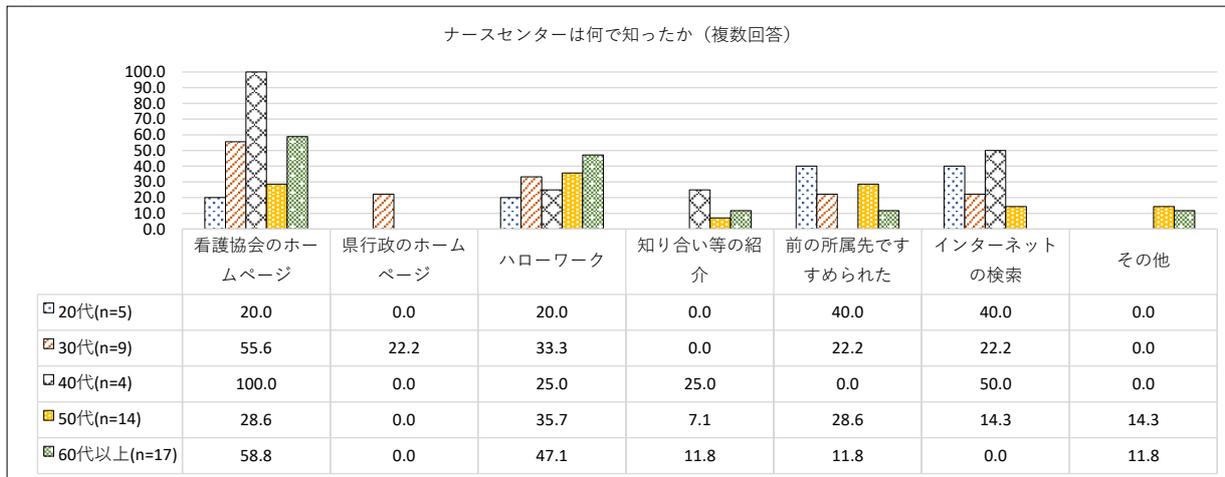
	十日町市	津南町	柏崎市	刈羽村	上越市	妙高市	糸魚川市	佐渡市	県内どこでも可	不明
下越 (n=2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新潟 (n=8)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
県央 (n=1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中越 (n=4)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
上越 (n=2)	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0

4. ナースセンターの利用について

1) ナースセンターは何で知ったか（複数回答）

ナースセンターを知ったきっかけでは、「看護協会のホームページ」が最も多く49.0%、次いで「ハローワーク」36.7%であった。（図13）

図13



2) ナースセンターの相談を利用したことがあるか、また利用した窓口はどこか

ナースセンターでの相談について利用したことがあると回答したのは55.1%であった。窓口別では本所の利用が55.6%、上越支所が22.2%、長岡支所が14.8%であった。（図14、15）

図14 ナースセンター利用の有無

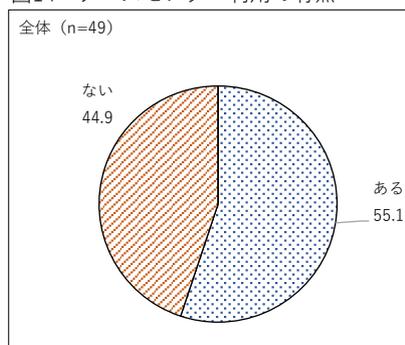
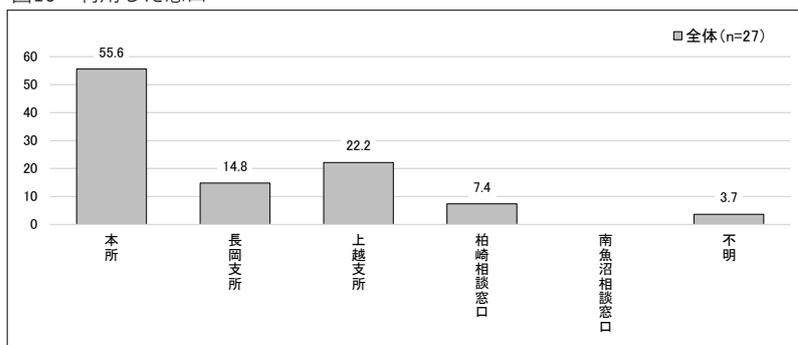


図15 利用した窓口



3) 相談方法（複数回答）

ナースセンターを利用したことがあると回答した27人のうち、約9割の方が対面での相談を利用したと回答した。（表16）

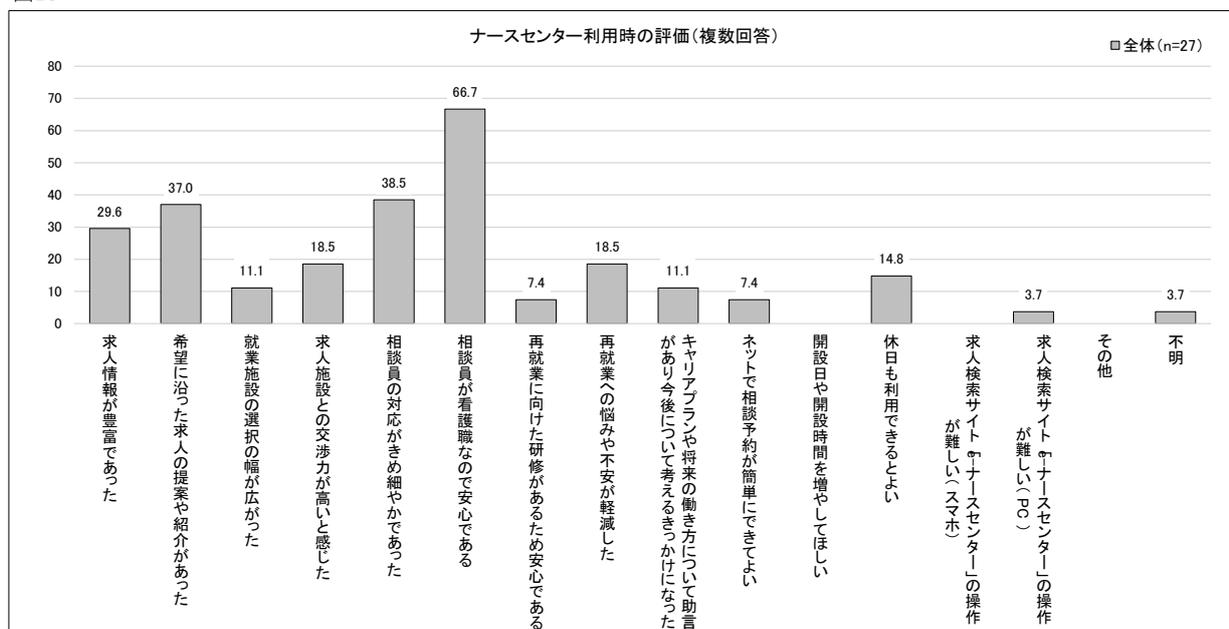
表16 相談方法（複数回答）

	対面相談	電話相談	メール相談
20代(n=2)	2	1	0
30代(n=6)	5	2	0
40代(n=3)	3	1	0
50代(n=6)	6	1	0
60代以上(n=10)	8	6	2
計	24	11	2
割合 (%)	88.9	40.7	7.4

#### 4) ナースセンター利用時の評価（複数回答）

ナースセンターの利用時の評価では、「相談員が看護職なので安心である」が66.7%で最も多く、次いで「相談員の対応がきめ細やかであった」38.5%、「希望に沿った求人への提案や紹介があった」37.0%となっている。開設日時の増加や休日利用を望む声は少なかった。（図16）

図16



#### 5) ナースセンターが開催している再就職支援セミナーについて

再就職支援セミナーについて、「知っている（参加したことがある）」22.4%、「知っている（参加したことはない）」67.3%と合わせて約9割が知っていると回答した。（表14）

表14 ナースセンターが開催している再就職支援セミナーについて

	知っている（参加したことがある）	知っている（参加したことはない）	知らない
20代(n=5)	0	5	0
30代(n=9)	0	7	2
40代(n=4)	1	3	0
50代(n=14)	5	7	2
60代以上(n=17)	5	11	1
計	11	33	5
割合(%)	22.4	67.3	10.2

#### 6) どのような内容のセミナーであれば参加してみたいか（自由記載）

- ・新卒、第二新卒向けセミナー
- ・プランクに対しての不安が解消できるような基本的な内容から参加可能なもの
- ・人工呼吸器の管理や、心電図の取り方と図解の読み方について
- ・感染、安全管理関連の講義や技術と採血点滴の基本的な看護技術
- ・コロナ対策について
- ・基本的な看護手技
- ・採血、留置針の実技や電子カルテなど
- ・現在の医療がどのようなになっているのかなどの情報が聞きたい
- ・求人情報が豊富であれば参加してみたい
- ・ワクチン接種について
- ・看護過程の展開方法、看護倫理
- ・訪問看護に必要な知識・技術をまとめたセミナー

### III まとめ

#### 1. 回答状況について

- ・調査対象について、前年度まではナースセンターへの登録者すべてを対象としていたが（1000人程度）、すでに就業中の方からの回答が多かったため、令和3年度は前年度の新規登録者に限定して調査を行ったが回答率は36.7%と変わらず、うち約半数が就業中であった。年代別で見ると、最も回答率が高かったのは60代以上で61.4%、次いで50代が42.4%であった。再就職についてプラチナナース世代からの関心の高さが伺えた。また、最も回答率が低かったのは20代で19.5%であった。

#### 2. 現在の状況と就業の希望について

- ・就業希望の有無について、「すぐに就業したい」、「1年以内に就業したい」、「いずれ就業したい（1年以上後）」を合わせると81.7%と高い水準にある。
- ・現在就業していない理由について、最も多かったのは「希望の条件に合う職場が見つからない」23人（46.9%）であり、特に30代と50代からの回答が多かった。家族背景をみると、回答した30代のうち8割以上が未就学児との同居ありと回答し、「家事・育児との両立ができない」が理由第2位であった。50代では回答者の全員が父母との同居ありと回答し、理由の第2位は「家族の健康問題のため（介護等）」であった。  
また、「希望の条件に合う職場が見つからない」と回答した求職者の就業希望条件をみると、9割以上が日勤帯での就業を希望し、そのうち85%が「週1～2日」または「週3～4日」と少ない勤務日数での希望であった。「希望の条件に合う職場が見つからない」と感じている求職者の多くが、育児や介護などを理由に日数や時間を第一優先で探していることが分かった。
- ・現在就業していない理由で次に多かったのは「定年退職したため」と回答した60代以上の看護職11人（22.4%）であった。このうち8人（72.7%）が就業の意向ありと回答しているが、就業したい理由を問うと75%が「社会との関わりを持ちたいから」と回答した。また、就業希望ありの8人の希望条件をみると全員が「日勤のみ」を希望し、全員が「週1～2日」または「週3～4日」の少ない日数での働き方を希望した。定年後も社会との関りを絶たず、短い勤務時間でも就業を続けたいと希望する看護職が多いことが分かった。
- ・希望する働き方について、全体でみても9割以上が日勤のみの正規雇用または非正規雇用を希望している。
- ・再就職支援をすすめるためには、子育てや介護との両立支援、プラチナナースの雇用促進が必要であり、求人施設への働きかけが重要であると考える。

#### 3. 看護職の地域偏在について

- ・就業を希望する地域は、居住地または隣接する市町村での希望が多かった。条件付きで希望地域以外でも就業可能か聞いたところ、57.5%が「どの様な条件でも難しい」と回答した。条件付きで希望地以外も可能と回答した中では、「遠方からでも交通費の支給がある」との回答が最も多く、転居が必要な地域への就業は難しいと感じる人が多いことが分かった。そのほか、「短期間なら可能（数ヶ月～1年以内）」17.5%、「就業先の賃金が高い」17.5%等が上位であった。

#### 4. ナースセンターの利用について

- ・ナースセンターの利用について、定期的に登録者へ電話やメールでの状況確認を行っているが、実際に相談をしたことがあると回答したのは55.1%と約半数であった。また、相談利用者のうち約9割が対面での相談を利用し、「相談員が看護職なので安心である」ことを利点として評価した。休日の利用や開設時間の延長などを希望する意見は少なかった。「再就業に向けた研修があるため安心である」と回答したのは7.4%と低く、再就職支援セミナーの認知度では約9割が「知っている」と回答し認知度は高いものの、実際に参加したことがあると回答したのは2割にとどまった。求職者のニーズに沿った内容の検討が必要である。